

資料 1

木造阿弥陀如来及び両脇侍像

- | | | | |
|-------|----------------------|-----------|---------|
| 1 所在地 | 幡豆郡吉良町大字饗庭字七度ヶ入 3 番地 | | |
| 2 所有者 | 宗教法人 金蓮寺 | | |
| 3 員数 | 3 軀 | | |
| 4 法量 | 像高 | 木造阿弥陀如来坐像 | 80 cm |
| | | 木造観音菩薩立像 | 79.4 cm |
| | | 木造勢至菩薩立像 | 80.4 cm |

5 指定理由の概要

本像は金蓮寺^{みだどう}弥陀堂内に本尊として安置される阿弥陀如来坐像と、その両脇侍像である。本尊は、すでに昭和 30 年に県指定有形文化財に指定されているが、両脇侍像は、本尊よりかなり遅れて付加されたとみなされたためか、指定対象とされなかった。

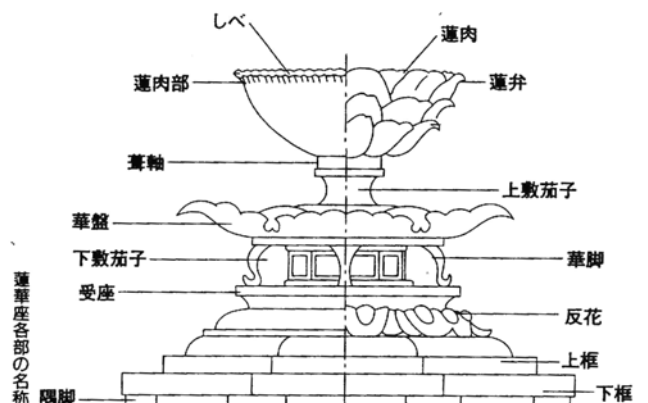
最近の研究で、両脇侍像の再評価が進み、とくに服装において鎌倉時代的な要素の存在が指摘されるに至った。たとえば、観音菩薩像の腿部を帯状の布が巻くのは、腰から下げられた吊り金具とともに、江戸時代一般の簡略な服装形式とは異なり、独創性にあふれ、造形的にも優れている。

ただし、これだけで両脇侍像を鎌倉時代の作と認めることはできない。両像は腰をかがめて礼拝者に歩み寄る姿勢をとるが、そこに多少、造形的に不自然なところもあり、また、顔付きもやや平板で、鎌倉彫刻的な立体感や写実性に少し欠ける部分もある。こうしたことから、両脇侍像は、古像を意識した江戸時代初め頃の復古的な作例とみるべきであろう。

一方、台座は下半部を失ってはいるが、蓮弁^{れんべん}（注）を貫いた^ふ請花部^{うけばな}の形式、構造は、本尊のそれと完全に一致する。通常、蓮弁はすり鉢型の蓮肉の周囲に打ち付けられるが、本像の場合、円板の周囲に蓮弁を付けて皿状にしたものを数枚重ねている。この構造は、鎌倉時代後半頃に比較的多く見られ、また材質的にも古材化が進んでいることから、弥陀堂が建立された鎌倉時代中期に近い頃の作と推察される。

結論としては、両脇侍像は、鎌倉時代に遡るものではないものの、台座から明らかなように、弥陀堂本尊は当初から両脇侍像を伴う三尊形式であったと考えられる。したがって、両脇侍像が多少時代的に遅れるものではあっても、江戸時代の作品としては優れており、三尊一具として保存されるのが望ましい。ここに両脇侍像を追加指定することにしたい。

（注）蓮弁：蓮の花弁をかたどったもの。蓮華（蓮の花）をかたどった台座が蓮華座で、仏像台座の最も一般的な形式である。



6 金蓮寺について

国宝に指定されている金蓮寺の弥陀堂は、文治2年(1186)、源頼朝が三河国守護^{あだちとうくろくもり}安達藤九郎盛^{なが}長に命じて建てさせた三河七御堂^{しちみどう}の1つと伝えられる。県内最古の木造建築物で、建築の特徴からは鎌倉時代中期の築造と考えられている。

7 近年の県指定の例（彫刻）

名 称	員数	所有者（所在地）	時代	指定年月日
もくぞうほうかんあみだによらいざぞう 木造宝冠阿弥陀如来坐像	1 軀	ざいかじ 財賀寺（豊川市）	鎌倉	平 8 . 3 . 18
もくぞうかんげあんぼさつりゅうぞう 木造観世音菩薩立像	1 軀	しょうぜんじ 昌全寺（豊田市）	平安	平 8 . 3 . 18
もくぞうあみだによらいりょうわき 木造阿弥陀如来及び両脇 侍像	3 軀	ちやうりゅうじ 長隆寺（一宮市）	鎌倉	平 11 . 11 . 26 (両脇侍像の追加指定)
もくぞうけいえんしょうにんざぞう 木造慶円上人坐像	1 軀	ほんしょうじ 本證寺（安城市）	南北朝	平 13 . 8 . 24
もくぞうあみだによらいざぞう 木造阿弥陀如来坐像	1 軀	えいこくじ 栄国寺(名古屋市)	鎌倉	平 14 . 8 . 23
もくぞうじゅういちめんかんのんぼさつざぞう 木造十一面観音菩薩坐像	1 軀	けんりんじ 賢林寺（小牧市）	平安	平 14 . 12 . 27

金蓮寺



彌陀堂



木造阿弥陀如来及び両脇侍像

資料 2

牛久保の若葉祭

- 1 所在地 豊川市牛久保町常盤 1 6 4 番地
- 2 保存団体等 宗教法人 八幡社 氏子総代祭事長
- 3 指定理由の概要

4 指定理由の概要

若葉祭は豊川市牛久保町の氏神、牛久保八幡社の例祭である。4月7、8日に近い土曜日に宵祭、日曜日に本祭が行われ、宵祭の時に天王社に祀られる獅子頭を八幡社へ迎え、翌日の本祭に八幡社の神輿とともに天王社へ送る。そして上若組、下中組（西若組）、神児組（通称裏町組）、笹組（通称寺町組）の氏子4組が、ダシ（豪華な飾りの付いた纏）と呼ばれる町印を先頭に、それぞれ特色ある祭礼風流（注）を展開する。

上若組と下中組は大山と囃子車を出し、前者の大山ではそれぞれ「かくれ太鼓」を行う。神児組は神児車で神児舞を舞い、笹組は笹踊りにヤンヨウガミが加わる。

大山は東三河地方の古い山車の要素を残すものである。懸装品として二階の高欄正面から布団を飾る山車風流は、この地方の大山や山車でも他に例がない。さらに二層の山車の中で行うかくれ太鼓は、稚児舞が独自に発達したもので、唐子の衣装を身につけた稚児が、高欄から身を乗り出して危険な所作を人形振りのように演じることに特色がある。

笹踊りは大太鼓1人、小太鼓2人が風流歌に合わせて踊る拍子物風流の芸能で、県内では東三河のみに分布するものである。囃子方であるヤンヨウガミが笹を持ち、最後には所かまわず寝転ぶ。その寝転ぶ姿はウナゴージ（うじ虫）に似ていることから、若葉祭が「うなごうじ祭り」とも呼ばれる所以である。

なお、若葉祭は氏子域の変化とともに昭和24年、獅子頭を迎え送る場所が隣接する下長山町の熊野神社から、現在地の天王社に変わった。また、祭りの行列が交通事情の変化により、昭和40年頃には現在の道に移動した。こうした社会情勢の変化にともなう細部の変化は見られるものの、祭礼執行の基本形を良く伝えている。

このように、牛久保の若葉祭は、東三河地方の祭礼風流の特色を良く残すものである。

（注）風流：人の目を驚かす意匠に眼目を置いた趣向の意。趣向を凝らした風情ある作り物・仮装・物真似・練り物・拍子物・集団舞踊などをいう。

5 近年の無形民俗文化財の指定

名 称	所 在 地	指定年月日
板山獅子舞	半田市板山町	平 9 . 10 . 17
万燈祭 まんどまつり	刈谷市銀座	平 12 . 11 . 21
長湫の警固祭り ながくて けいご	愛知郡長久手町	平 17 . 3 . 22

若葉祭



ヤンヨウガミ



笹踊り



かくれ太鼓

資料 3

愛知県指定文化財件数

種 別		現在数	今回指定	計	(参考)国指定	
有 形 文 化 財	建 造 物	4 5		4 5	7 7	
	美 術 工 芸 品	絵 画	9 7		9 7	5 2
		彫 刻	1 0 7	(1)	1 0 7	4 3
		工 芸 品	1 0 6		1 0 6	7 6
		書跡・典籍	3 8		3 8	7 2
		考古資料	2 7		2 7	3
		歴史資料	5		5	2
無 形 文 化 財		3		3	0	
民 俗 文 化 財	有形民俗文化財	2 5		2 5	5	
	無形民俗文化財	4 3	1	4 4	1 1	
記 念 物	史 跡	4 5		4 5	3 5	
	名 勝	5		5	5	
	天 然 記 念 物	5 9		5 9	2 6	
合 計		6 0 5	1 (1)	6 0 6	4 0 7	

今回指定の彫刻「木造阿弥陀如来及び両脇侍像」は追加指定であるので、件数は変わらない。
 なお、国指定は、平成21年1月1日現在の件数である。